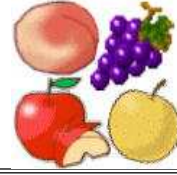


平成23年度 果樹情報 第18号

(平成24年3月15日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況（3月上旬：果樹研究所）

3月の平均気温は1半旬が0.5℃で平年より3.1℃低く、2半旬が3.8℃で平年より0.3℃高い状況でした。この期間の降水量は80.5mmで平年の374%でした。

2 発芽予測（果樹研究所）

今後の気温が平年並みに経過した場合、モモ「あかつき」の発芽は4月3日頃で平年より8日遅く、ナシ「幸水」の発芽は4月7日頃で4日遅く、リンゴ「ふじ」の発芽は4月2日頃で4日遅いと予測されています。

なお、この時期の生育は直前の気温の影響が大きいため、今後の気温の推移により大きく変動する可能性があるため注意が必要です。

表1 発芽予測日（3月12現在）

	発芽日		今後の気温経過		
	昨年	平年	平年並み	2℃高い	2℃低い
モモ あかつき	3月28日	3月26日	4月3日	3月30日	4月7日
ナシ 幸水	4月8日	4月3日	4月7日	4月4日	4月12日
リンゴ ふじ	3月31日	3月29日	4月2日	3月29日	4月6日

注) 発育速度（DVR）モデルによる発育予測。平年は1981～2010年の平均値。

東北地方1か月予報(仙台管区气象台 平成24年3月9日発表)より

今後の気温経過は、1週目（3月10日～3月16日）の気温は低い確率が50%、2週目（3月17日～3月23日）は気温が高い確率が50%、3～4週目（3月24日～4月6日）は平年並みの確率が40%となっています。

3 栽培上の留意点

(1) 管理作業の計画的実施

この時期の管理は、せん定、せん定枝処理、誘引、及び休眠期防除等が中心となりますが、発芽予測日や今後の気象予報等を考慮し、管理作業が遅れないように注意してください。

(2) モモの摘らい

摘らい作業の適期は3月上旬から発芽直前までで、発芽期以降は摘らいの際に葉芽を痛めやすい上に花らいが離脱しにくくなり能率が極端に低下します。摘らい作業は時間を要するので計画的に実施しましょう。

なお、摘らい作業の省力化を目的として、高圧動力噴霧機と摘らい用ノズルによる水圧摘らいを実施する場合は、果面障害の発生を最小限に抑えるため、発芽期前後に実施するか、開花直前～開花期頃に実施してください。開花前5～15日および発芽後5日～15日頃は果面障害が発生しやすいので注意が必要です。

4 病虫害防除上の留意点

発芽前の防除は時期が遅れないように注意し、温暖無風の日を選んで確実に実施しましょう。

(1) リンゴ

近年、腐らん病の発生が多くなっています。休眠期の防除を徹底するとともに、発病部位は健全部を含むように削り取るかせん除してください。

うどんこ病のボケ芽等はせん定時に除去し、第1次伝染源の密度低下を図りましょう。

リンゴハダニの越冬卵量が多い園では、休眠期の防除を徹底してください。

(2) モ モ

縮葉病やハダニ類、カイガラムシ類、アブラムシ類に対して、休眠期の防除を徹底しましょう。

コスカシバの発生が多い園では、縮葉病防除後に防除薬剤を幹および主枝に手散布してください。

(3) ナ シ

黒星病およびハダニ類、カイガラムシ類に対しては、休眠期の防除を徹底しましょう。

(4) ブドウ

晩腐病に対しては、休眠期の防除を徹底しましょう。。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。